芳賀中学校適正規模地区委員会だより

芳賀中学校適正規模地区委員会　　令和８年１０月１日　No.２

第２回「芳賀中学校適正規模地区委員会」が開催されました

８月２５日（火）に「第２回芳賀中学校適正規模地区委員会」を開催しました。その中で、教育委員会より、小規模校のメリット・デメリットと他県の適正規模化の事例について説明がありました。その後、小規模校のメリット・デメリットについて、芳賀中学校における具体的な事例を出し合い、今後の方向性について話し合いました。概略は以下のとおりです。

○説明（教育委員会より）

(1)小規模校によるメリット・デメリットについて

・メリット：「きめ細かな指導が行いやすい」「一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい」「人間関係が深まりやすい」「異学年との交流が生まれやすい」「学校が一体となって活動しやすい」など

・デメリット：「切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」「学級間相互の連携や協力が難しい」「集団で行う教育活動に制約が出やすい」「多様な学習形態や指導体制がとりにくい」「人間関係が固定化されやすい」など

(2)適正規模化の事例について（他県の事例より）

・学校施設と社会教育施設を複合・集約化し、地域全体の学びの場を整備

・小学校１校と中学校１校を小中一貫校に統合し、特別支援学校と連携してインクルーシブ教育を推進

・地域や保護者と丁寧に合意形成を進め、学校統合へ向けた地域住民の機運を高めるために検討過程を共有

・小学校１０校と中学校５校を規模の異なる３校に再編し、小規模校と中規模校の選択肢を保障

○協議内容

(1)小規模校のメリット・デメリットについて

・小学校を卒業して中学校に入学してもお互いを知っている安心感や、地域の一体感がある。

・デメリットは、なれ合い過ぎて切磋琢磨がないこと。環境や人間関係に変化がないため、友達同士で注意喚起ができなくなるのではないか。

・小中同じ友達で仲がよいが、部活が少なくて入る選択肢が少ない。

・高校で初めての大規模で、親として不安はあった。中学で別の環境の子とまじりあう経験があってもよかったと思う。

・小規模校は、専門教科の先生が少ないことや、人間関係の評価の固定化も考えられる。

・小学校で関係を作ってしまうと、中学校で関係が直せない。

・地域からすると、そのまま残したい。生徒たちには地域行事を盛り上げてもらっている。

・小規模校のデメリットが協議されたが、それが統合により解消されるものなのか、それとも現状の学校の努力でどうにかできるのか、という視点で考えることも必要である。

(2)今後の方向性

・今後は、小・中両方の保護者に通知を出し、説明会を開催する。そこで出た意見をふまえて次回以降の協議を進める。

◆「前橋市立小中学校適正規模・適正配置基本方針 改訂版」は教育委員会ホームページでご覧いただけます
（https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/kyoiku/gakumukanrika/gyomu/8/44584.html）
＜「地区委員会だより」も後日ホームページ上に掲載いたします＞

◆問い合わせ：前橋市教育委員会事務局　学務管理課教育企画係　電話：898-6513　FAX：243-7190

＊協議の概要は今後も、この「地区委員会だより」で保護者や地域の方々に報告してまいります。そして、地区委員会では、保護者や地域の方々のお考えを生かしながら検討を進めていこうと考えておりますので、何かご意見がございましたら、前橋市教育委員会事務局または地区委員までご連絡ください。